バスケットボール

全国高校選手権県予選

バスケットボールの全国高校選手権（ウインターカップ）兵庫県予選（神戸新聞社後援）最終日は1日、神戸市須磨区のグリーンアリーナ神戸であり、女子決勝では三田松聖が80―74で県新人大会覇者の神戸龍谷に競り勝ち、初優勝を飾った。男子決勝は昨年の全国総体4強の報徳が99―79で育英に快勝し、3年連続4度目の頂点に立った。

3位決定戦の男子は神戸科技が71―60で関学を振り切り、女子は前回覇者の市尼崎が103―48で神港学園を圧倒した。男女の優勝校は12月23～29日に東京体育館などである本大会に出場する。

【女子】3位決定戦
市尼崎 103（25 28 26 24｜15 7 18 8）48 神港学園
▽決勝
三田松聖 80（16 25 24 15｜17 15 22 20）74 神戸龍谷

【男子】3位決定戦
神戸科技 71（16 14 13 28｜11 17 12 20）60 関学
▽決勝
報徳 99（24 26 29 20｜22 20 16 21）79 育英

報徳 男子 快勝で3連覇

1年生テーブス15得点

男子決勝は攻撃の幅を広げた報徳が3連覇。NBAアカデミーのキャンプにも参加した新人テーブスは「優勝できてよかったが、ここはスタート地点」と頼もしかった。

第1クオーターは堅守速攻を身上とする相手のペースにのまれ、20―21。田中コーチに「ルーズボール、リバウンド、守備への戻り。気持ちを入れてやろう」と背中を押され、メンバーはエンジンがかかった。

先発の2年中野が、ゴール下のコンゴローと外角のつなぎ役としてパスを通せば、前半の終わりにはテーブスが内外にと連続7得点。丸山は5本のスリーを沈め、最多28点でチームを支えた。

入学直後から中核を担うコンゴロー、丸山、宇都宮が最終学年となり、実力派の1年生が融合。一つの集大成を迎える今季、コロナ禍で夏の全国総体は消えた。「日本一になるには今回が最後のチャンス」と丸山。中野は「ディフェンスやルーズボールなど陰の役割で支える」と総力戦で挑む覚悟だ。

（藤村有希子）

男子決勝・報徳―育英 第2クオーター、ゴールを狙う報徳のテーブス

【報徳】	反	1	1	4	5	0	0	3	2	0	2	0	3	0	0	21
村丸中松長須コンテ岡万郡宇江張	自	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	2	0	0	2	20
	③	②	0	5	3	2	0	0	1	2	6	4	0	0	3	0	0	35	③	②	自
	得	0	2	8	6	4	0	0	2	7	1	5	8	0	0	1	1	0	0	99	得
【育英】	反	0	4	2	0	4	1	4	4	1											
島鄭々佐和中喜伊佐城	自	0	3	0	0	3	0	0	2	0	3	0	1	2	0	9
	③	②	0	1	2	0	1	2	3	3	8	0	0								
	得	0	5	1	3	0	2	7	6	7	2	1	0								

（注）3Pフリースローは投則反

計 20 ③② 自は反 29点。トー、ー 4得ーロ数。 79 はュス功 得シー成 点リの